



第3部 京都医療科学大

⑦ カテーテル治療・iVR ががん治療でも実施



しばた・としや 京都大医学部卒。医学博士。京都大医学部付属病院・放射線部准教授を経て、2016年より京都医療科学大教授。専門は放射線診断・iVR。

心筋梗塞の診察で、心臓の血管撮影やカテーテル治療を受けた方も多いことでしょう。その際、放射線を使って心臓の血管(冠動脈)を撮影し、細くなった冠動脈にカテーテル(細いチューブ)を入れて治療します。診療放射線技師がそのお手伝いをしています。脳動脈瘤でも、カテーテルを使った治療を受ける方がおられます。

柴田 登志也 教授

病変部にアプローチし、治療する手技をiVR(インターベンショナルラジオロジー)と呼びます。iVRは聞きなれない言葉ですが、心臓や脳だけではありません。肝細胞癌の治療でも、肝動脈に入れたカテーテルから薬剤を使って血管をふさぎ、がん細胞への血液の流れを遮断すると、血流で運ばれる栄養が補給されなくなり、がんが小さくなります。交通事故などで出血が多

い際には、緊急に止血しなければなりません。血管内に入れたカテーテルの先端を放射線で見ながら、出血した動脈を見つけ、薬剤で血管をふさいで血の流出を止めています。カテーテル治療で命が助かるのです。iVRは開腹・開胸手術に比べて体への負担が小さい治療法で、治療後の回復が早いという大きな利点があります。しかし、まれに大きな合併症が起こることがあります。治療の全てに当てはまりますが、iVRを受けられる場合は担当医から十分な説明を聞き、納得した上で治療を受けてください。

このような血管撮影、カテーテル治療、iVR治療の際には、診療放射線技師が立ち会って血管を撮影し、カテーテルの部位がよく見えるように装置を取り扱います。ただ、治療には何十分も時間がかかりますので、患者の受ける放射線量は多くなります。本学では、放射線量をできる限り少なくして撮影するよう、学生時代から教育しています。

診断から治療まで、放射線はさまざまな場所で行われ、そばでは必ず診療放射線技師が仕事をしています。そのうちの何人かは京都医療科学大学の卒業生です。Ⅱ第3部おわります